

みとしん MITOSHIN Business survey 景気動向調査 vol.63

2017年4~6月期

業況判断は4期連続改善

〈概況〉

今期(2017年4~6月期)の茨城県内中小企業の業況判断D.Iは、前期(2017年1~3月期)より1.2ポイント上昇の▲1.8と、4期連続改善となりました。また、来期(2017年7~9月期)予想については▲2.9と、今期実績比1.1ポイント悪化予想となっています。

収益面では、前期比売上額判断D.Iが2.0と1.4ポイント上昇、前期見通しとの比較でも1.2ポイント上昇となりました。前期比収益判断D.Iは▲1.2と2.8ポイント上昇、前期見通しとの比較では0.8ポイントの低下となりました。

雇用面では、人手過不足判断D.Iは▲8.2と、依然として人手不足感は続いているものの、悪化超幅が3.5ポイント縮小し、前期見通しとの比較では4.1ポイント上昇となりました。

資金繰り判断D.Iは、前々期▲10.7、前期▲10.1から当期は▲10.6と、厳しい状態が続いています。

設備投資実施企業割合は、前々期が7.8%、前期が8.4%、当期は9.0%と3期連続で上昇し、来期は10.7%とさらに上昇を見込んでいます。

業種別業況判断D.Iについては、製造業、サービス業で改善、卸売業、不動産業では大幅改善しました。中でも製造業は3期連続改善超となりました。地域別業況判断D.Iについては、県西、鹿行地域で横ばい、県南地域で改善、県央、県北で悪化となりました。

【業種別天気図】

	2017年 1~3月期 (前期)	2017年 4~6月期 (今期)	2017年 7~9月期 (見通し)
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

【地域別天気図】

	2017年 1~3月期 (前期)	2017年 4~6月期 (今期)	2017年 7~9月期 (見通し)
茨城 地域名	県央		
	県北		
	県南		
	県西		
	鹿行		

この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成しております。

➡は業況改善、➡は業況悪化、➡は業況変化なしを表しています。

好調 ← → 低調

●みとしん景気動向調査とは

本調査は水戸信用金庫のお取引先(茨城県内)の経営者を対象として、各店の担当者が質問事項を用意し聞き取る方法で行い、各質問事項で「増加した」(良い)とする企業が全体に占める構成比と、「減少した」(悪い)とする企業の構成比との差(判断D.I)を用いて分析を行っています。

対象先数は、製造業92社、卸売業59社、小売業98社、サービス業93社、建設業99社、不動産業59社の合計500社で、今回の回答先数は490社(回答率98.0%)でした。

本調査結果は、当金庫が信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当金庫が正確性および完全性を保証するものではありません。



このまちの夢がきこえる

水戸信用金庫

景況

今期(2017年4～6月期)の業況判断D.Iは▲1.8と、前期に比べて1.2ポイント上昇し、これは前回調査時における今期予想▲4.6を2.8ポイント上回る上昇となりました。

2016年6月期との収益面における前年比較では、前年同期比売上額判断D.Iが0.6から▲0.8と、1.4ポイント低下、同収益判断D.Iは▲5.3から▲3.3と、2.0ポイント上昇となりました。

販売価格判断D.Iは1.2と、前期比1.4ポイントの上昇、仕入価格判断D.Iは9.8と、同1.8ポイント上昇となりました。

雇用面での人手過不足判断D.Iは前期比3.5ポイント上昇の▲8.2(マイナスは人手「不足」超)、残業時間D.I(「増加」-「減少」)は前期比1.9ポイント上昇の▲2.9、来期予想も▲2.9となりました。

資金繰り判断D.I(「楽」-「苦しい」)は、前期比0.5ポイ

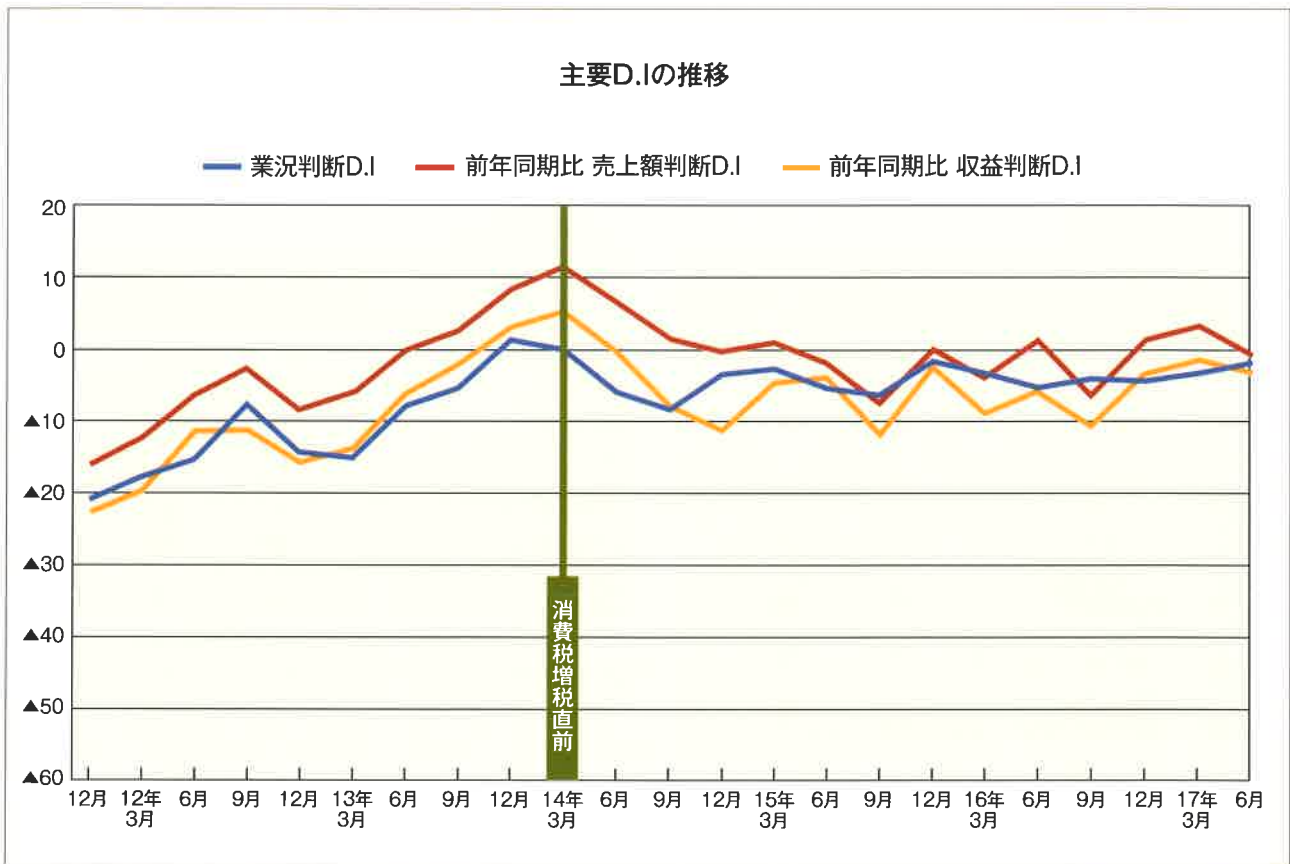
ント減少の▲10.6となり、前回調査時における今期予想▲10.9とほぼ同じ結果となりました。

設備投資実施企業割合は、前期比0.6ポイント上昇の9.0%で、3期連続上昇となりました。

業種別の前期比業況判断D.Iについては、建設業(13.3→6.1)で大幅悪化となる一方で、小売業(▲5.1→▲5.2)は横ばい、製造業(▲6.6→▲4.5)、サービス業(▲3.3→▲2.2)で改善、卸売業(▲13.6→▲7.0)、不動産業(▲10.2→0.0)で大幅改善となりました。

地域別の業況判断D.Iは、県西(0.0→0.0)、鹿行(6.1→6.0)で横ばい、県南(▲9.1→1.1)で改善する一方で、県央(▲3.6→▲6.5)で悪化、県北(4.0→▲5.0)で大幅悪化となりました。

主要D.Iの推移



見通し

来期2017年(7～9月期)の見通しについては、業況判断D.Iが▲2.9と、今期実績比1.1ポイント悪化を、売上額判断D.Iおよび収益判断D.Iについては今期実績比それぞれ1.4ポイント、0.4ポイントの悪化を予想しています。

業種別では製造業、小売業で改善、サービス業で横ば

い、卸売業、建設業、不動産業で悪化を予想しています。地域別では県央、県北で改善、県西で横ばい、県南、鹿行で悪化を予想しており、県西(0.0予想)以外の地域では全て悪化超を予想しています。

製造業

～今期改善、来期も改善予想～

Manufacturing industry

今期の業況判断D.Iは▲4.5と、前期比2.1ポイントの改善となり、更に来期は▲1.1と、今期実績比3.4ポイントの改善を見込んでいます。

前期比売上額判断D.Iは▲2.3と前期比2.1ポイントの上昇、同収益判断D.Iは▲6.8と、同3.1ポイントの上昇となりました。また、資金繰り判断D.Iは▲9.1と0.8ポイントの上昇となりました。

中分類業種別では、「建設関連型製造業」で11.1ポイントの大幅悪化、「機械器具型製造業」で5.2ポイント、「消費財型製造業」で5.6ポイント悪化超幅が増加となりました。「その他の製造業」で16.5ポイントの大幅改善、「部品加工型製造業」で5.5ポイント改善となりました。

製造業における経営上の問題は？(複数回答)

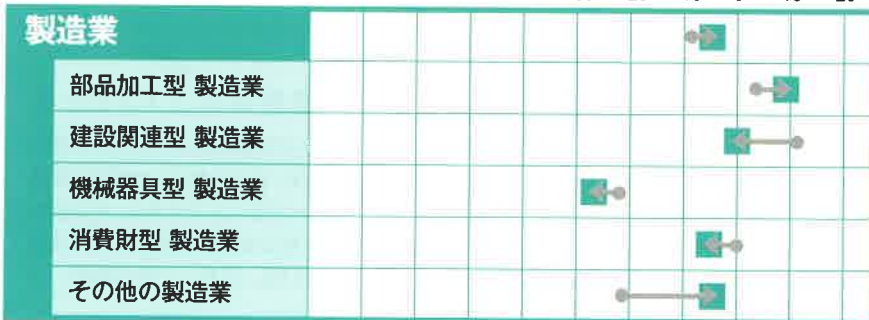
- ① 売上の停滞・減少……36.4%
- ② 同業者間の競争の激化…29.5%
- ③ 利幅の縮小……………28.4%

問題に対する当面の重点経営施策は？(複数回答)

- ① 経費を削減する………54.5%
- ② 販路を広げる……………50.0%
- ③ 提携先を見つける………17.0%

業況判断D.Iの推移

D.I ▲70 ▲60 ▲50 ▲40 ▲30 ▲20 ▲10 0 10 20



■ 今期(2017年4~6月期) ● 前期(2017年1~3月期)

調査員のコメントから

● 輸入品等との価格競争では厳しいが、国内産、地元品の強みを拡大させて価格以外で競争を試みている。(石材採掘・加工業)

卸売業

～今期改善、来期は悪化予想～

Wholesale business

今期の業況判断D.Iは▲7.0と、前期比6.6ポイントの改善となりました。来期は▲10.5と、今期実績比3.5ポイントの悪化を見込んでいます。

前期比売上額判断D.Iは▲3.5と、6.9ポイント悪化、同収益判断D.Iは▲7.0と、同1.9ポイント悪化となりました。

資金繰り判断D.Iは▲14.0と、前期比2.9ポイントの上昇となりました。

中分類業種別では、「農畜産物・水産物卸売業」で28.6ポイントの大幅悪化となる一方で、「その他の卸売業」で1.7ポイント、「建築材料卸売業」で10.4ポイント上昇しました。「食料・飲料卸売業」では39.8ポイント上昇により改善超に転じました。

卸売業における経営上の問題は？(複数回答)

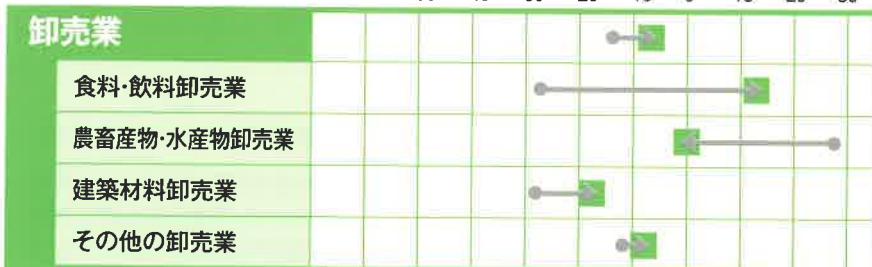
- ① 同業者間の競争の激化…33.3%
- ② 利幅の縮小……………31.6%
- ③ 売上の停滞・減少………26.3%

問題に対する当面の重点経営施策は？(複数回答)

- ① 経費を削減する………54.2%
- ② 販路を広げる……………50.9%
- ③ 持になし……………17.5%

業況判断D.Iの推移

D.I ▲60 ▲50 ▲40 ▲30 ▲20 ▲10 0 10 20 30



■ 今期(2017年4~6月期) ● 前期(2017年1~3月期)

調査員のコメントから

● ハイブリッド車の売上は伸びているが、ディーラーメンテナンスを出す人が多く、町の整備工場でも簡単にハイブリッド車のメンテナンスが出来れば業況は上向きになると考えている。(自動車部品販売)

小売業

～今期悪化、来期はわずかに改善予想～

retail business

今期の業況判断D.Iは▲5.2と、前期比0.1ポイントの悪化となりました。来期は▲4.1と、今期実績比1.1ポイントの改善を見込んでいます。

前期比売上額判断D.Iおよび同収益判断D.Iは0.0と前期比それぞれ4.1ポイント、3.1ポイント改善となりました。

資金繰り判断D.Iは▲8.2と前期比1.0ポイント上昇となっています。

中分類業種別では「飲食店」が横ばい、「飲食料点小売業」では11.7ポイント、「繊維・衣類・身のまわり品小売業」で11.9ポイント、「自動車・自転車小売業」で10.0ポイントの改善となりました。「その他の小売業」では12.2ポイント悪化となりました。

業況判断D.Iの推移

D.I ▲70 ▲60 ▲50 ▲40 ▲30 ▲20 ▲10 0 10 20



■ 今期 (2017年4~6月期) ● 前期 (2017年1~3月期)

小売業における経営上の問題は？ (複数回答)

- ① 同業者間の競争の激化…40.2%
- ② 売上の停滞・減少 ……38.1%
- ③ 大型店との競争の激化…26.8%

問題に対する当面の重点経営施策は？ (複数回答)

- ① 経費を削減する…55.7%
- ② 宣伝・広告を強化する…25.8%
- ③ 売れ筋商品を取り扱う…19.6%

調査員のコメントから

● 大型量販店との差別化を図るため、何かに特化した販売体制をつくりたいと考えるも、その何かが見つからず、価格競争で負けている。(スポーツ用品販売)

サービス業

～今期改善、来期は横ばい予想～

service business

今期の業況判断D.Iは▲2.2と、前期比1.1ポイントの改善となり、依然として悪化超が続いていますが2期連続改善となりました。来期予想は横ばいと見込んでいます。

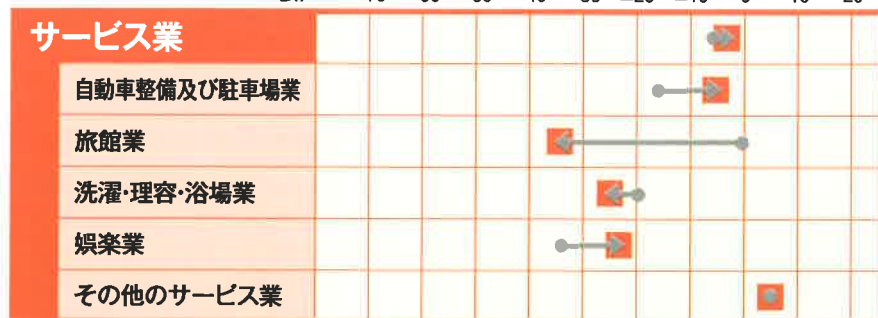
前期比売上額判断D.Iは1.1と前期比3.3ポイントの改善、同収益判断D.Iも▲2.2と前期比5.4ポイント改善となりました。

資金繰り判断D.Iは▲17.6と15年10月~12月期調査結果以来、最も低い水準となりました。

中分類業種別では、「自動車整備及び駐車場業」および「娯楽業」で11.1ポイントの改善、「その他のサービス業」は横ばい、「洗濯・理容・浴場業」では5.0ポイントの悪化、「旅館業」で33.3ポイントの大幅悪化となりました。

業況判断D.Iの推移

D.I ▲70 ▲60 ▲50 ▲40 ▲30 ▲20 ▲10 0 10 20



■ 今期 (2017年4~6月期) ● 前期 (2017年1~3月期)

サービス業における経営上の問題は？ (複数回答)

- ① 同業者間の競争の激化…45.1%
- ② 売上の停滞・減少 …… 36.3%
- ③ 人手不足 ……………18.7%

問題に対する当面の重点経営施策は？ (複数回答)

- ① 経費を削減する…51.6%
- ② 販路を広げる…38.5%
- ③ 人材を確保する…25.3%

調査員のコメントから

● 自動車修理・整備が中心で業況は良いが、今後の事を考え、自動車事故等のレッカー移動サービス業務も行う他、新しい販路を開拓する方針です。(自動車整備・板金・販売)

建設業

～今期悪化、来期も悪化予想～

construction business

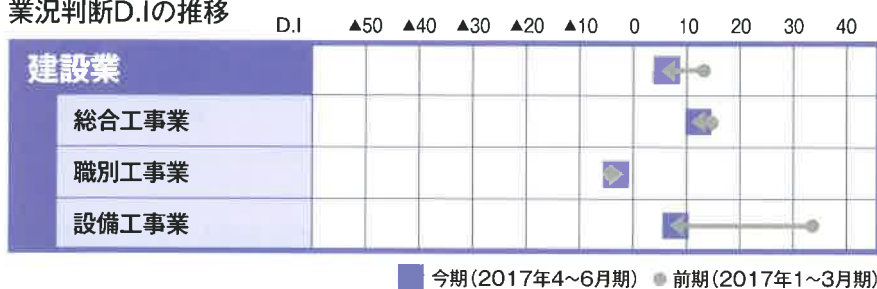
今期の業況判断D.IIは6.1と、前期比7.2ポイントの悪化となりました。来期は、今期実績比6.1ポイントの悪化を見込んでいます。

前期比売上額判断D.IIは9.2と前期比8.1ポイントの悪化、同収益判断D.IIは8.2と2.0ポイントの悪化となりました。

資金繰り判断D.IIは▲9.2と、前期比4.1ポイント悪化超幅が拡大となっています。

中分類業種別では、「総合工事業」14.6→11.6とわずかに悪化、「設備工事業」で33.3→9.5と大幅悪化、「職別工事業」では▲3.4→▲2.9と悪化超ではあるものの4期連続改善となりました。

業況判断D.Iの推移



建設業における経営上の問題は？(複数回答)

- ① 同業者間の競争の激化…41.8%
- ② 利幅の縮小…33.7%
- ③ 売上の停滞・減少…28.6%

問題に対する当面の重点経営施策は？(複数回答)

- ① 経費を削減する…57.1%
- ② 販路を広げる…53.1%
- ③ 技術力を高める…19.4%

調査員のコメントから

● 若い人材育成に力を入れても、慣れてきた頃に退職してしまい、技術を持った人材や、優秀な人材は大手や都内の業者に引っ張られてしまっている。(一般建設業)

不動産業

～今期改善、来期も改善予想～

real estate business

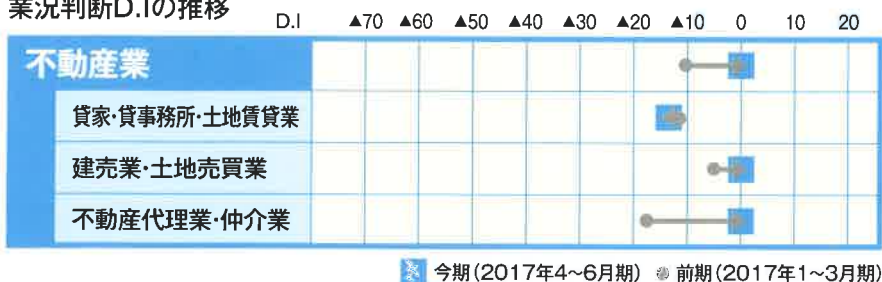
今期の業況判断D.IIは0.0と、前期比10.2ポイントの改善となりました。来期は▲1.7と今期実績比1.7ポイントの悪化を見込んでいます。

前期比売上額判断D.IIは6.8と、前期比17.0ポイント大幅改善、同収益判断D.IIは▲3.4と、10.2ポイント改善となりました。

資金繰り判断D.IIは▲5.1と前期比1.7ポイント上昇となりました。

中分類業種別では、「貸家・貸事務所・土地賃貸業」で2.2ポイントの悪化、「建売業・土地売買業」では5.0ポイントの改善、「不動産代理業・仲介業」では17.6ポイントの大幅改善となりました。

業況判断D.Iの推移



不動産業における経営上の問題は？(複数回答)

- ① 同業者間の競争の激化…42.4%
- ② 商品物件の不足…33.9%
- ③ 利幅の縮小…25.4%

問題に対する当面の重点経営施策は？(複数回答)

- ① 宣伝・広告を強化する…42.4%
- ② 情報力を強化する…37.3%
- ③ 経費を削減する…37.3%

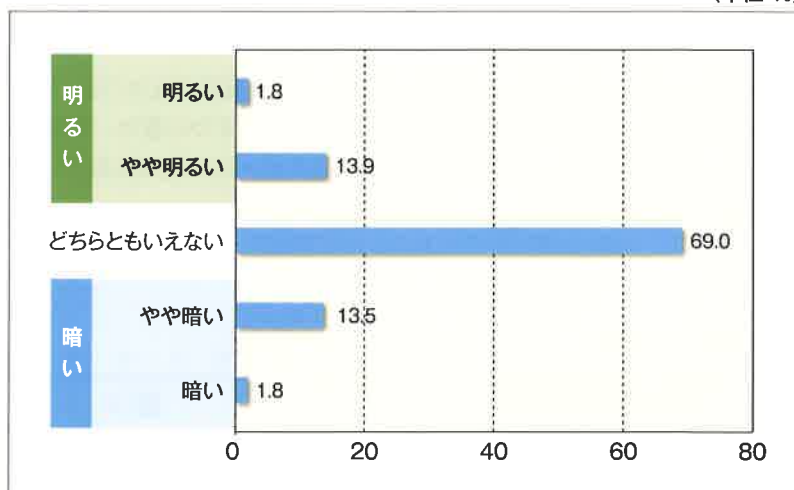
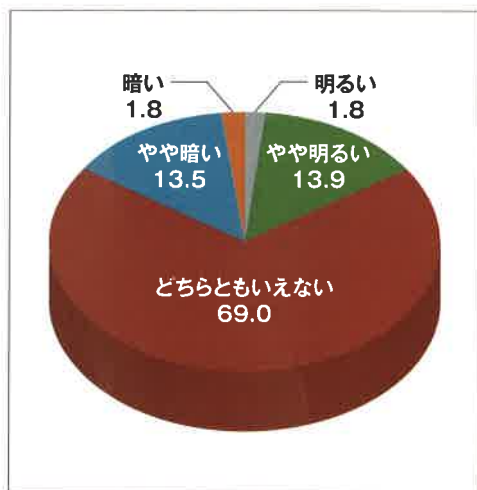
調査員のコメントから

● 売買情報、競売情報にアンテナを張っているが、仕入や落札が難しくなっている。今後、消費税による影響が読み切れておらず、駆け込み需要対策も検討している。(不動産取引業)

特別調査 中小企業の3~5年後の事業の見通しについて

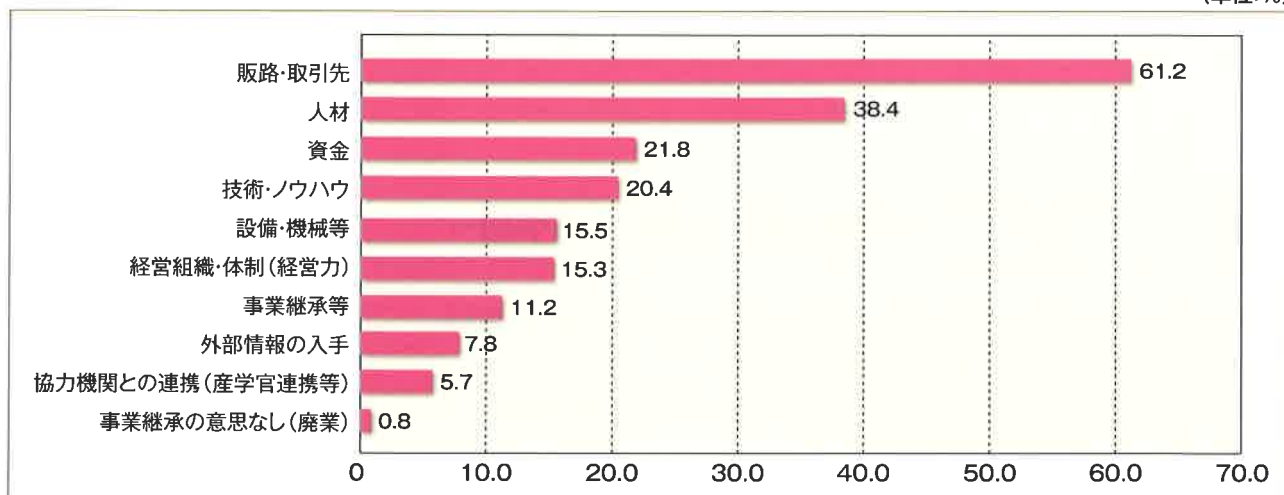
Q.1 貴社では、3~5年後の自社の事業をどのように見通していますか。

(単位:%)



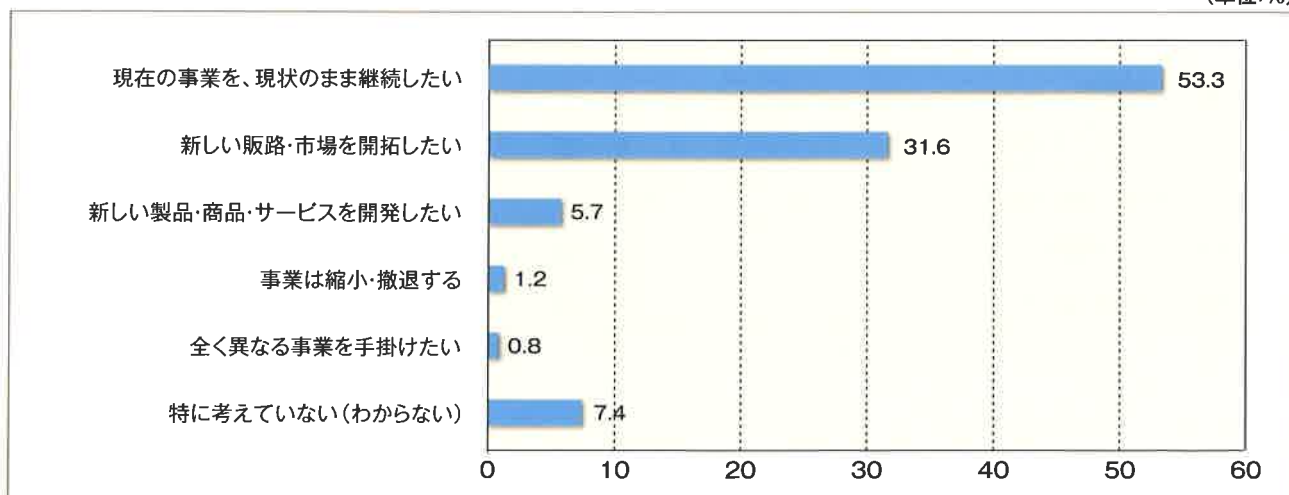
Q.2 貴社では、3~5年後に向けて安定した事業を続けるために重視する事柄について、どのようにお考えですか。(複数回答)

(単位:%)



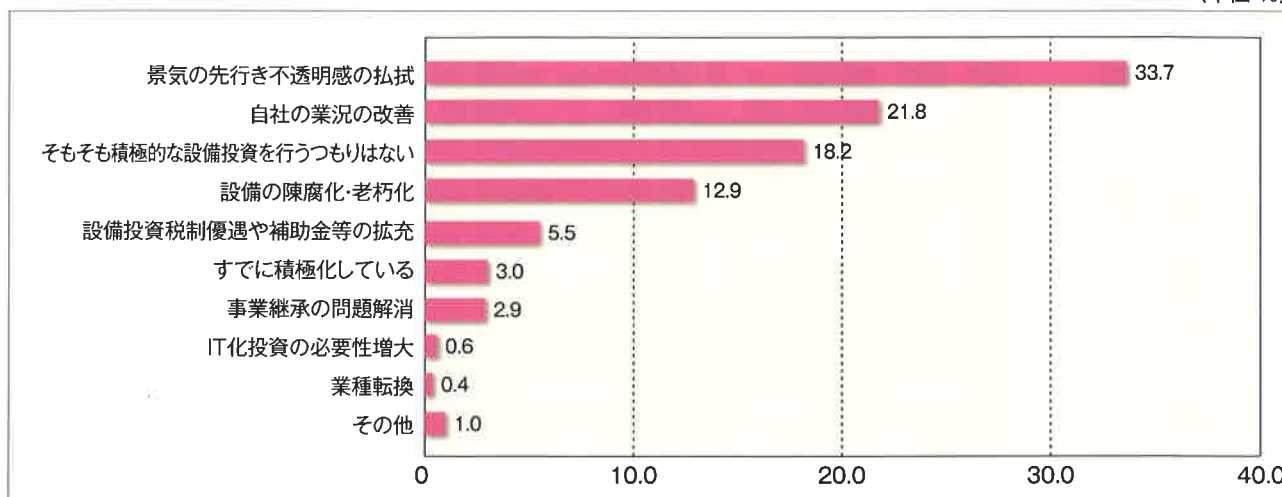
Q.3 貴社では、3~5年後に向けて、現在の事業をどのように展開していきたいとお考えですか。

(単位:%)



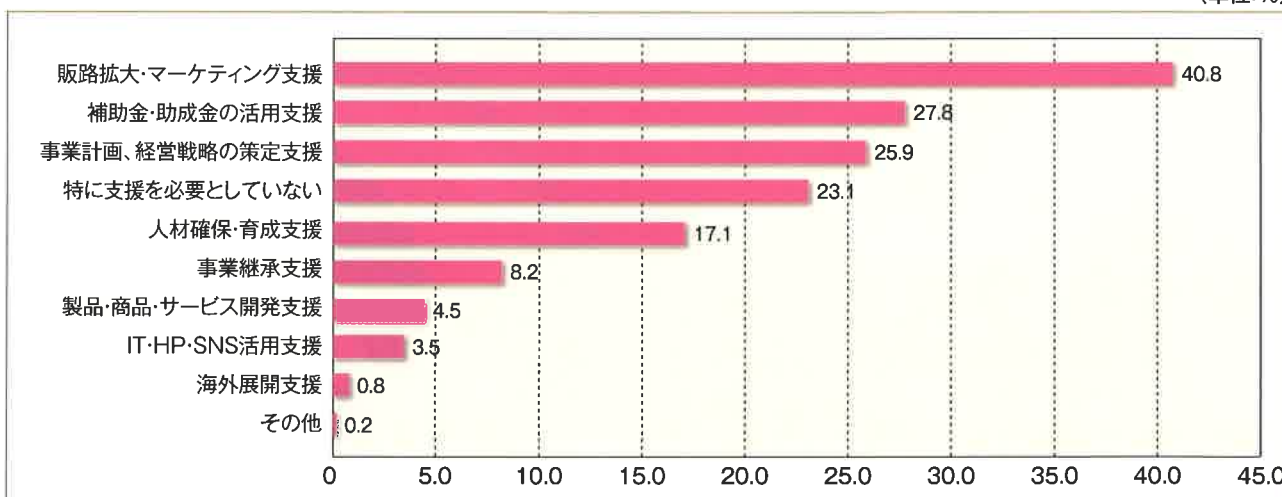
Q.4 貴社では、3~5年後に向けて、現在どのような状況になれば積極的な設備投資を開始しますか。

(単位:%)



Q.5 貴社では、3~5年後の事業の継続・発展へ向けて、公的機関、商工会議所、商工会、金融機関等の経営相談窓口からどのような支援を受けたいですか。(複数回答)

(単位:%)



特別調査より 「中小企業の3~5年後の事業の見通しについて」

茨城県内の中小企業の3~5年後の事業の見通しについて調査を実施しました。調査結果を総合的に見ますと、「事業の見通しについて」は「どちらともいえない」とする回答が69.0%と最も多く、景気の先行き不透明感を表した結果となっています。

Q1:「3~5年後の自社の事業の見通し」については、「どちらともいえない」と回答する企業が69.0%と最も多く、残り31%の内訳は、プラス見通し(「明るい」「やや明るい」)は15.7%、マイナス見通し(「暗い」「やや暗い」)は15.3%と、ほぼ同率の結果となりました。業種別で見ますと、小売業で「やや暗い」が23.7%とプラス見通しの13.4%より多い結果となりました。

Q2:「安定した事業を続ける為に重視する事柄」については、総合で「販路・取引先」が61.2%と最も多い回答となり、次いで「人材」が38.4%、「資金」が21.8%、「技術・ノウハウ」が20.4%となりました。業種別においても同様の結果となりましたが、サービス業は「販路・取引先」45.1%、次いで「人材」が42.9%と特徴的な結果となりました。

Q3:「今後の事業展開」について、総合では「現状維持」が最も多く53.3%、次いで「新しい販路・市場の開拓」が31.6%と、他の選択肢と

大きな差が出る結果となりました。業種別では、卸売業で「新しい販路・市場の開拓」が最も多く、次いで「現状維持」と他業種とは違う結果となりました。

Q4:「積極的な設備投資の開始時期」について、総合では「景気の先行き不透明の払拭」が33.7%と最も多く、次いで「自社の業況改善」が21.8%、「そもそも積極的な設備投資を行うつもりはない」が18.2%、「設備の陳腐化・老朽化」が12.9%と続いています。業種別では、小売業が「そもそも積極的な設備投資を行うつもりはない」を2番目の回答となりましたが他の業種では、総合の結果と同じ傾向を示しています。

Q5:「公的機関、商工会議所、商工会、金融機関等の経営相談窓口から受けたい支援」については、総合で「販路拡大・マーケティング支援」が40.8%と最も多く、次いで「補助金・助成金の活用支援」が27.8%、「事業計画、経営戦略の策定支援」が25.9%、「特に必要としない」が23.1%、「人材確保・育成支援」が17.1%と続く結果となりました。業種別では、製造業では「補助金・助成金の支援」、サービス業では「事業計画、経営戦略の策定支援」が2番目に多い選択肢となっており、業種の特徴が結果に表れたと言えます。